

---

## 事故防止対策（海難編）

---

### ■手漕ぎボート・ミニボート海難の防止

#### ○気象、海象の把握に努めましょう

… 手漕ぎボートやミニボートは波や風に弱く、波の打ち込みによる浸水や転覆、海中転落する可能性が高いです。沖出し風（沖へと吹く風）の場合、自身で帰ることが不可能となることもあるので、十分に注意して下さい。

#### ○バランスに対する注意

… 荷物を積みすぎたり、ボート上で立ち上がったたり、乗り出してバランスを崩すと、転覆につながります。特に降ろした錨を揚げる際には十分にバランスを心がけて作業するようにしましょう。

#### ○旗を船にとりつけ、周りから視認しやすいボートに

… 小型ボートは他船から非常に見えにくい存在です。目印となるようポール等を利用し、先端に旗やレーダー反射板を取り付け、自身の存在を他船にアピールしましょう。シーカヤックについても同様に取り付けることをお勧めします。

#### ○発行前点検の励行

… 海に出る前には船の点検を必ず実施してください。シーズンオフで長い期間使わなかった船であれば、なおさらのことしっかりと点検を実施しましょう。

### ■小型船の安全対策の徹底

#### ○発行前点検、気象海象情報の入手、見張りの励行

… 手漕ぎ・ミニボートと比べると転覆といった海難は少ないですが、波の打ち込みによりエンジンが故障してしまうこともあるので、気象・海象の把握には十分心がけましょう。もちろん出航前には点検も実施してください。

また、手漕ぎ・ミニボートからすると大きく、スピードも出るものが多いため、非常に恐怖を感じることもあります。小さなボート周辺を航行するときは慎重に航行するとともに、見張りの徹底も欠かさずに実施しましょう。

### ■衝突海難の防止

#### ○常時適切な見張りを

… 船同士の衝突の原因に、見張りが不十分であったというケースは、実例に多く見受けられています。船同士の衝突海難は最悪の事態になる恐れも高く、非常に危険なものです。ただし、しっかりと見張りさえできていれば未然に防げていたと思われるケースも多くありますので、見張りの徹底に心がけてください。

#### ○船舶間のコミュニケーションの促進

… 無線 VHF や気笛信号等を使って船舶同士の情報量を増やすことにより、相手の動静などが想像しやすくなります。したがって、衝突の防止にも結びつくこととなります。